

じしんふうしえ（なまずえ）  
地震諷刺絵（鯰絵）

1855年刊

辛いときこそ発揮される  
江戸っ子のユーモア



安政江戸地震の発生直後から約2か月間、幕府の出版許可を受けないまま発行された「鯰（なまず）絵」とよばれる浮世絵です。いずれも地震の原因と考えられていた大ナマズを題材にしていますが、表現方法はバラエティ豊かです。もっとも代表的なのは、地震をおさめる神様であるタケミカツチと地震を鎮める「要石」を描いた、お守りとしての図です。そのほか、タケミカツチに全国のナマズが謝っている図、町人たちが一丸となってナマズをこらしめている図、災害によって経済的に得をした職業を諷刺する図など、思わずクスリと笑ってしまうようなユーモアが盛り込まれたものも沢山あります。これらを見ると、鯰絵が地震除けのお守りとしてだけでなく、震災で傷ついた心に笑いやしばしの癒しを与えるものとして求められていたことが分かります。

*Satirical Picture of the Earthquake, 1855*

Immediately after the Ansei Great Earthquake of Edo, this ukiyore print called "Namazure" or "Picture of Catfish" was in circulation for about two months without authorization. The ukiyore used catfish as the subject matter because they were mythologically connected to the cause of earthquakes. This print is representative of Namazure pictures which were published in varieties. These images were sought after not only as an amulet for earthquake prevention, but also to offer laughter and healing for those hurt by the earthquake. There are a picture that shows catfish all over Japan apologizing to the god of earthquake suppression, a picture that shows townspeople punishing catfish, and a picture that is sarcastic of occupations which gain economic benefits from the disaster.



新吉原大なまず由来:江戸時代(1855年)

ナマズに癒された江戸っ子



☆豆知識

吉原は多くの小屋がぎゅうぎゅうに立ち並んでいたため、安政江戸地震が起きたとき、地震と共に発生した火災によって多くの人が命を落としました。

☆どうしてナマズなの？

⇒江戸時代、大ナマズは地震の原因だと考えられていました。地震発生前にナマズが予知して暴れたという逸話も残っています。



☆ナマズを絵に描いたのはなぜ？

⇒地震を起こすナマズを絵に描くことで、地震除けのお守りにしていました。また、ユーモアあふれる表現をすることで、震災後の辛さを笑いで癒やすことを目的としていました。

安政江戸地震直後に『地震諷刺絵』として多くの鯰絵が描かれました。

この浮世絵は、地震に襲われ多くの被害が出た吉原で暮らしていた町人たちが、巨大ナマズに襲いかかっています。

ナマズを襲っている人たちは、どんなものを武器として使っているかな？みんなの表情はどうか？

ナマズの表情を見てください。どんな表情を浮かべているように見えますか？

絵をよく観察して、気付いたことを書いてみよう！

